

ターザンのナイフとツール・ボックス

常任理事 国立教育研究所室長 石坂和夫

最近、観光ブームで、外国旅行中に日本人に会わないことは極めて稀になってきた。しかし、わずか10数年前までは、アメリカでさえも、はじめて日本人に会ったという人に巡り会うこともよくあったものである。30歳を過ぎた日本人が、お酒を飲もうとして、子供と見られて断われた人がよくいたものである。見慣れない外国人の「違い」はなかなか分からないもののようなのだ。

教師にとって、毎日接している子供のことは、よく把握していると思込みがちであるが、修学旅行の引率をしてみても、はじめて子供の「違い」に気が付き、この子はこんな子だったのかと改めて見直すようになった経験をお持ちの方も少なくないことと思われる。私自身、長い間の教員生活で、何度もこのような経験をしたものであった。

アメリカ人が、日本人の「違い」が見分けられないように、われわれも、毎日接している子供の「違い」が、なかなか見分けられないのかもしれない。極悪犯人が、捕らえられるまでは真面目で、模範的な人間として評価されていたケースなど「違い」の分かりにくさを示している。

日本は今、歴史上かつて経験したことのない経済的な繁栄を遂げているが、世界中が主義主張を言い張る傾向が強まる中で、日本人の異質性が諸外国から指摘されだしてきた。中には、見当外れと思われることも少なくないが、しかし、多くの人が、なるほどと思うことも多いようである。

最近、諸外国からの教育視察者が多数訪れている。今年になってから私の研究室を訪れた外国人訪問者だけでも、既に数か国に上る。とくに、教育の専門家以外の人も目立ちはじめている。彼等の関心の一つは、日本の教育の国一性・効率性と経済との関係である。

日本の教育は、たしかに文部省の定めた学習指導要領によって、教える内容は規定されているが、学習の方法については、ほとんど普及されていない。それにもかかわらず、全国のほとんどすべての学校の教師の教え方は、非常によく似ている。

先生方の多くは、伝統的な、黒板とチョークによる一斉授業をしていて、この方法から抜け出すとはしない。外国人訪問者が注目するのは、国

際教育学調査などにおける日本の子供のアチーブメントの高さである。黒板とチョークは、あたかもターザンが巧みに使う多目的道具「ナイフ」に似ている。ターザンのような、いつも熱帯のジャングルで生活している者にとっては、ナイフは、簡便でしかも何にでも使えて便利である。ほかには何の道具も入らない。変化の乏しいジャングルでは、実に役に立つ道具というべきである。日本の学校には、コンピュータのような教育機器はほとんど使われていない。それなのに、先生がターザンのナイフを使いながら世界一の教育成果を上げている。一体この秘密はどこにあるのだろうか。訪問者の率直な疑問に答えるのは実に難しい。

よそから見ると日本の教育の良い点が目立つらしいが、今日本では周知のごとく、教育問題が山積している。受験地獄、いじめ、校内暴力、中途退学、落ちこぼれ等々、教えあげればきりが無い。国教審答申に述べられている教育改革の基本的な考え方は、「個性重視の原則」を、教育のすべてに通ずる基本的な原則とすることであるが、裏を返せば、個性を重視しない教育がまかり通っていたということになるのではあるまいか。確かにナイフ一本では、個性を生かす教育は無理というものであろう。一人一人の個性を重視するためには、個に応ずるツールが用意されなければなるまい。個別化・個性化教育に長い間チャレンジしてきた学校には、努力の成果であるツール・ボックスが、次から次と作られてきた。そして、これらのボックスを活用しながら、一人一人の子供に応ずる教育の実践に真剣に取り組んできたのである。ツールの特長は、一つの目的に対しては威力を発揮するが、目的以外のものに対しては無力である。したがって、使い方を誤ってはならない。ナイフならば誰でも使えるが、ツールは複雑になればなるほど使い方は難しくなる。全個連の先生方が、子供の違いを見抜く努力をされながら、一つ一つ開発したツールを、目的に応じて使い分ける工夫を積み重ねながら、教育改革の牽引車となって、世界に誇れる「日本の教育ここにあり」と、注目される日が早く来ることを期待したいのである。

平成2年度の主な活動計画

会員名簿の発行

昨年は、新しい事務局を構成し、事務上の整理もやっと整いました。本年度より、本格的な活動が可能な体制ができ、念願の会員名簿の作成作業が進んでいます。

本年4月の時点で退職されたり、転任されたりした会員の方々も多いことと思いますが、今回はとりあえず、平成2年3月の時点で名簿を作成し、以後修正を重ねていきたいと思っておりますので、よろしくお祈りします。

なお、連絡先は原則として、自宅住所とさせていただきます。学校住所の場合、転任されますと連絡がつかなくなる場合がありますので、ご了承ください。

会誌「個性を育てる」第4号の発行

会誌「個性を育てる」は、おかげさまで美しい表紙の写真が好評です。3号までは秋に発行してきましたが、次号からは、何とか夏休みの前に発行していきたいと思っております。第4号は、生活科の授業づくりの特集です。今回は原稿の集まりもよく、6月頃には配布できそうです。ご期待ください。

第5号は、コンピュータ教育について特集する予定です。コンピュータを活用した授業づくりの紹介、あるいは、コンピュータ教育についての論文をお寄せください。言うまでもなく、個別化・個性化教育という視点よりお書きくださることを期待しています。

——バックナンバーをお分けします——

会誌の1・2・3号が少しだけ残っています。個別化・個性化教育についての理論や授業づくりの特集で、たくさんの先生方に書いていただいています。ご希望があれば、1冊500円でお分けします。

〈会誌の注文・投稿に関する問い合わせ先〉

〒278 千葉県野田市堤台438-96

編集部長 松田 早苗

☎0471-25-2649

個性化教育実践校ガイドブックの発行

私たちの会は必ずしもオープン・スペースをもった学校だけのためのものではありません。ごく普通の校舎をもつ学校で教えておられる先生方も含んでいます。しかし、文部省の補助金のこともあって、近年、オープン・スペースをもった学校が毎年500校近く建てられてきています。あるいは、空き教室を改造した学校も多くなってきています。こうした学校の中で、すぐれた実践もなされてきています。

今回、これらの学校の内、100校ほどを選んで、ガイドブックという名称で皆さんに紹介していきたいと思っております。会員の方々には、是非ご自分の学校の紹介をお願いいたします。

第11回関東地区学期研究会開催

「生活科のための評価」——6月24日(日)

…上智大学

私たちの会には、生活科の授業を実践する中から、「いったいその評価をどうするか。」というような声が、多く寄せられるようになってきました。

昨年は、「個性化教育からみた生活科」と題して、生活科の授業の進め方について、研究会をもちました。今回は、生活科における評価をどう進めていったらよいかを探りたいと考え、研究会を組みました。

第6回夏季研修会の開催

昨年度の東海に続いて、本年度は九州で行います。現在、九州個性化教育研究会を中心に、準備を進めています。

加藤幸次先生、高浦勝義先生の講演を初め、生活科の公開授業やパネル・ディスカッション、分科会など、盛り沢山の内容が予定されています。夜は懇親会で、講師の先生方も交えて、全国の仲間とじかに触れ合い、語り合いたいと思います。奮ってご参加ください。

・期日 7月30日(月)～7月31日(火)

・会場 1日目 福岡市・福岡リーセントホテル

(JR博多駅より車で10分)

2日目 久山町・久原小学校

※くわしくは、6月にご案内いたします。

第2回海外学校見学研修会

一昨年、アメリカの「オープン・スクール」見学会をもちました。会員同士の自由な楽しい旅でした。運転手も通訳者も私たちですので、スケジュールも柔軟に組むことができました。また、普通の旅行では行けないような場所にある学校も訪問できました。

今回はボストンの学校とカナダ（オタワ近郊）の学校を見学したいと考えています。また、ボストンにありますEducation Development Centerやニューヨーク大学を訪問し、お話も聞く計画です。とはいえ、半分以上は観光です。

〈期日〉 8月18日（土）～8月30日（木）

〈訪問先（予定）〉

サンフランシスコ→ワシントン→ニューヨーク→ボストン（小・中学校見学）→モントリオール（小・中・高等学校見学）→オタワ（小・中・高等学校見学）

〈運転手兼案内役兼通訳〉

名古屋大学教育学部助教授 浅沼 茂先生
（留学5年 Ph. D）
上智大学文学部教授 加藤幸次先生
（留学6年 M. S）

※ 円安になっていますので、交通費・宿泊費が約40万円、保険・現地自動車・現地謝金などで約7万円、計47万円くらいかかるかと思われまます。

※ お問い合わせ、お申し込みは、事務局まで。



前回の海外学校見学研修会

私たちの本を紹介します

学力と個性の間

ぎょうせい 1989 2800円

私たちの立場は、学力と個性を統一的にとらえ現実の教育課程の中に組み入れることです。この本では、理論的に今までの考えをまとめ、かつ、一歩突っ込んだつもりです。

個性化教育読本 読本シリーズNo.67

教育開発研究所 1990 1400円

個性化教育について、学校レベルから教科レベルまで、様々な視点からまとめてみました

私たちの会の事務局のメンバーを中心に、約2か月という短期間で、作り上げました。私たちのエネルギーを感じていただけたらと思います。

オープン・スペース 個人差に応じた新しい学習指導の展開10

ぎょうせい 1989 2000円

東京の根岸小学校が、文部省の研究指定を受け「個人差に応じた学習指導の工夫」をテーマに、3年間にわたる研究の成果をまとめたものです。「個人差への対応」および「オープンスペースの活用」を明確にした新しい指導案が特長です。

上に紹介しました本を、お買い求めになりたい方は、書店にてご注文ください。なお、本会の研究会・研修会の際にも、販売いたします。

会費値上げのお知らせ

昨年度の理事会でご承認いただいたことですが、本年度より、個人会費を2000円から3000円に値上げさせていただくことになりました。

会誌や会報の発行、研究会・研修会の開催など、会の活動を続けていくために、ご理解・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

事務局長だより

遠くから集まってくる仲間たちに支えられて、事務局会は毎回盛況です。遅れていた名簿づくりや「個性化教育実践校ガイドブック」の編集もなんとか軌道に乗りました。

関東地方の方で、月1回(第3土曜日の3時～5時 上智大)の事務局会に参加なされたい方はご連絡ください。加藤先生・高浦先生のお話が聞けます。

庶務部長 佐久間茂和

昨年の夏季研修会では、東海個研の先生方に大変お世話になりました。全国各地で個性化教育に取り組んでおられる先生方と触れ合えたことは、私自身にとっても、非常に有意義であったと考えています。今年の夏は九州での研修会となりますが、事務局としても、総力をあげてバックアップしようとはりきっています。福岡でお会いしましょう。

研修部長 河合剛英

編集部では、現在会誌第4号の編集中です。生活料をメインテーマに、各地から力作が送られてきています。

原稿依頼から編集作業まで、4・5か月はパニック状態です。一番時間がかかるのが、文字数を確認して、ページの中におさめる仕事です。ひとつひとつ丹念に組んでいきます。原稿が集まらないときは、冷や汗ものです。印刷所にあやまりに行くのも、大切な仕事のひとつです。

編集部長 松田早苗

昨年度は、会報を何とか3回出すことができました。今のところは、研究会・研修会のお知らせや報告、事務局からの連絡などが中心になっていますが、全国で個性化教育を進めていらっしゃる会員の方々の声をもっと載せていきたいと思っています。

将来は、パソコン通信を使って、情報交換ができるようにしたいと考えています。

広報担当 望月桂二

新年度を迎えて、事務局の組織が一部変わりました。

さらにパワーアップしてがんばりますので、よろしく願います。

〈事務局新組織〉

庶務部 ○佐久間茂和(東京)
加藤幸次(東京)
(東海・九州個教研連絡担当)
(広報) 望月桂二(東京)
五十子晴美(東京)

会計部 ○中沢米子(東京)
等々力美津子(東京)

事務局
長

研究部 ○浅沼 茂(愛知)
加藤 勇(埼玉)
川島良代(東京)
小久保晶良(埼玉)
荻久保公秋(埼玉)
結城 恵(埼玉)

高浦
勝義

研修部 ○河合剛英(神奈川)
館岡茂樹(神奈川)
並木康成(神奈川)
池田伊三郎(神奈川)
成田幸夫(愛知)

(東海個教研)
池田 悟一(福岡)
(九州個教研)

編集部 ○松田早苗(千葉)
橋本悦子(千葉)
坂地澄夫(千葉)

〈オブザーバー〉

江連富夫(埼玉)
久保寺克明(神奈川)
志茂晓子(東京)
友山真知子(東京)
永井タケ子(東京)
保坂裕美(東京)

〈事務局への問い合わせ・連絡先〉

〒114 東京都北区赤羽南1-16-2-504

庶務部長 佐久間茂和

☎03-903-4780

〒114 東京都北区田端1-10-2-201

広報担当 望月桂二

☎03-822-1366

〒236 神奈川県横浜市金沢区泥亀2-3-1-203

事務局長 高浦勝義

(国立教育研究所) ☎03-714-0111